

令和5年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 羽場認定こども園

観点	②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	・異年齢交流の保育を考察すると、数年間、コロナ感染予防を重視した中での保育となり、クラスでさえも分散化のもと活動し、行事も中止や延期、縮小となり、特に異年齢児の集団活動は希薄になったと思う。ようやく、日常の保育を取り戻しつつある今、異年齢の集団あそびを多く体験し、その中で育まれる共感、活動への意欲、心の豊かさ、協調性、社会性を培ってほしい。
目標	・異年齢児とのふれあい活動を通して共感し、意欲、思いやり、感謝、あこがれの思いを育む。 ・異年齢児がそれぞれ、自主的に遊びながら、人との関わり方（社会性）を培う。
目標達成に向けた具体的な取組内容	・乳幼児が互いに多く関われるよう、集団あそび（ゲームあそびなど）を工夫する。 ・日常の園生活の中で異年齢（特に乳児）の安全な場面を設定して、小集団で給食やおやつ時に交流したり、年中・年長児が生活習慣面の補助や午睡前に絵本などを見せて話をしたり、共に楽しむなど、どんな援助をするかを自主的に考え、行えるようにする。 ・自由あそびの中で、異年齢児が自主的に遊びながら、人との関わり方を培い、「群れあそび」のような集団での遊びを楽しめるようにする。
成果	・異年齢児と関わる中で、年下の子とも一緒に遊ぶことを好んでできるようになり、また、遊びの中に入れてあげる姿が見られるようになってきた。戸外や室内、絵本コーナー、ホールなどでも遊びを年下の子にあわせたり、加減する、許してあげる、譲ってあげる等、遊びを自ら工夫し、相手を思いやる心の成長が感じられる。 ・小集団での自由遊びでは、遊び方を教えてもらったり、出来たら褒めてもらったり、幼児は年下の子の世話をし、乳児は幼児から学んだり、あこがれを持ち、遊びを共有したりすることで絆が深まってきた。 ・幼児が乳児に読み聞かせや寝かしつけを手伝ってくれたり、ゲームあそびなどでは、優しく接してくれ、乳児は「何をして遊んでくれるんだろう」というワクワク感や喜びを感じ、幼児は「読んであげたい」と絵本を読む練習に励んで、喜んでもらえた達成感を感じて、次への意欲につながっている。同時に年上としての自覚がでてきた。お互い良い相乗効果が生まれてきている。
評価	人としての集団の姿は、本来異年齢が基本といえる。同年齢の子どもたちのみの集団の方が、産業革命以降に効率化された教育・保育の形であり、不自然とも考えられる。本園では、本来の自然な形である異年齢集団での活動を重視した様々な活動を通して、年長児の年下への思いやりの気持ちやリーダーシップなどを育てている。一方年少児にとっては、年長児から読み聞かせや寝かしつけをしてもらうなどの遊びや活動を通して、自らの成長の良さお手本やあこがれとなっている。